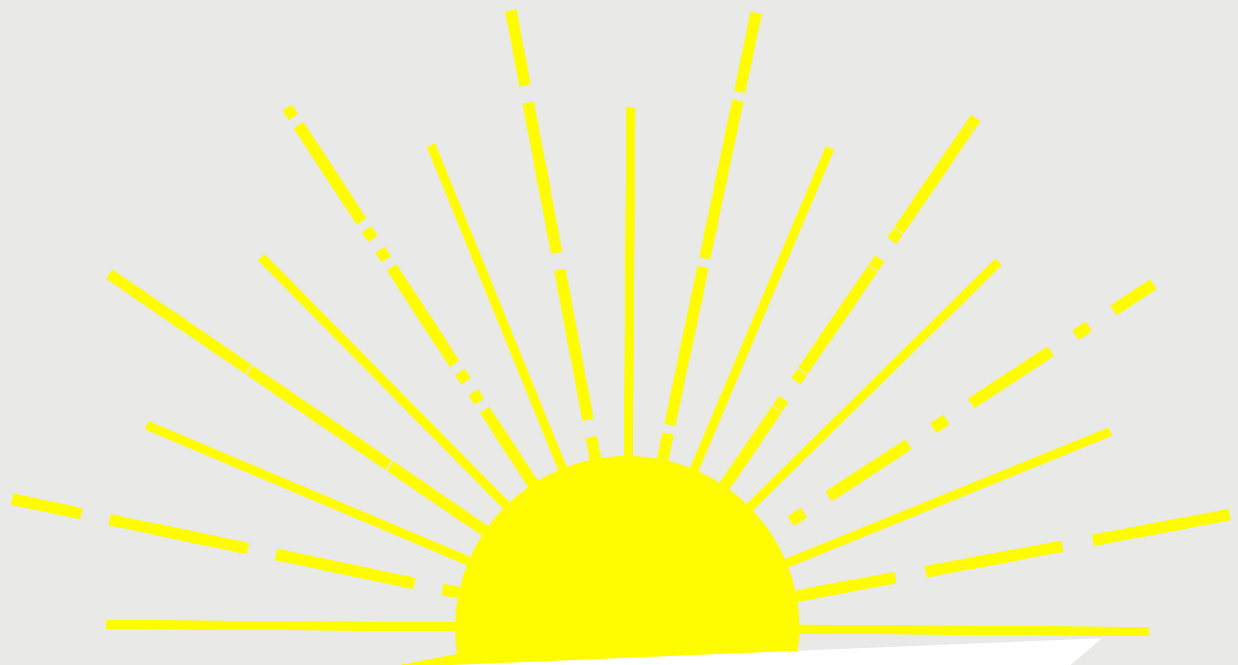




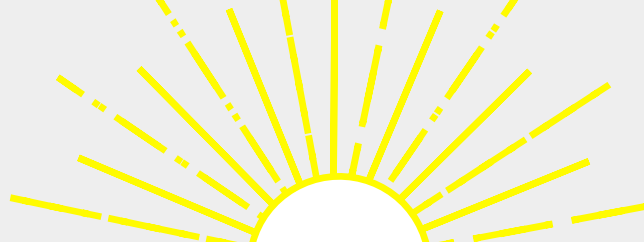
女性が

力を発揮する

これからの

地域防災

ノウハウ・活動事例集



はじめに

人口の半分は女性であり、女性の視点を反映することは、地域の防災力向上につながります。国連防災世界会議で採択された「仙台防災枠組2015-2030」においても、女性の視点の重要性が確認され、防災・復興に関する取組の基本的な考え方の一つとして世界的に共有されています。

女性の視点を取り入れた防災・復興体制を確立するためには、意思決定の場に女性が参画することが必要不可欠です。女性の参画割合が低いと、防災に対する平常時の備え、災害時、復旧・復興の各場面において女性の意見、女性と男性のニーズの違いが反映されにくい傾向があり、必要な支援が提供できなくなるおそれがあります。他方、「男性は仕事、女性は家庭」といった性別を理由とした固定的な役割分担意識がいまだに根強いことも影響し、現状では、地域の防災活動に携わっている女性は多いものの、リーダーとなっている女性は極めて少ない状況にあります。

令和2年12月に閣議決定した「第5次男女共同参画基本計画」では、都道府県・市区町村防災会議における女性委員の割合を令和7年に3割にすることを成果目標とするなど、防災の政策・方針決定過程における女性の参画を拡大するための取組を掲げています。

地方防災会議において女性委員の比率が高い地方自治体では、自主防災組織や消防団に所属する民間女性を委員として登用している事例もあります。こうしたことも踏まえ、今般、地域の防災活動に取り組む女性リーダーの先進的な取組事例を取りまとめ、あらゆる機会を捉えて全国各地に展開するため、「地域の防災活動における女性リーダーに関する実践的調査研究」を実施しました。この調査研究では、女性防災士や自治会・自主防災組織等の地域組織に所属する全国各地の女性防災リーダー等を対象としたワークショップを実施し、女性が地域で防災活動を行うに当たっての課題を抽出しています。また、防災に関する有識者からのヒアリングや、女性防災リーダーの活躍を支援する地方公共団体や民間団体の取組事例について調査・分析し、抽出された課題への対応策や具体的な事例を収集しました。これらの成果を取りまとめたものが本ノウハウ・活動事例集です。

本ノウハウ・活動事例集は、自治体や自治会・自主防災組織等の地域組織の皆様が、女性が地域の防災活動で活躍するためにどのような取組が必要かについてのヒントを得て、具体的な行動として実践するために作成したものです。自治体職員や自治会、自主防災組織など地域における活動に携わる全ての皆様が、女性の参画が地域防災力の向上にとって大きな役割を持つことについての理解を深めていただくとともに、男女共同参画の視点に立った災害対応の取組を一層進めていただきますようお願いいたします。

令和4年3月
内閣府男女共同参画局

女性が力を発揮する
地域防災

どんな課題があるだろう？

地域で女性が力を発揮するうえでの課題を抽出するために、地域で防災活動を行っている女性たちを対象にワークショップを実施しました。その結果、自主防災組織、行政それぞれに、過去のルールにしばられている部分や、まだまだできることが多く見つかりました。

ワークショップで聞こえてきた 地域の防災士や自治会長の女性たちの声

地域に昔から住んでいる有力者が
リーダーになっているから、
新しい女性は入りにくい…
活動したいと思ったとき、
どうすればいいの？

防災組織に女性が入ること
になっているけれど、
実際は“女性はお手伝い”
自分の想いを
どうしたら実現できるの？

「組織のトップは男性しか
できない」と言われた…
**女性はリーダーに
なれないの？**

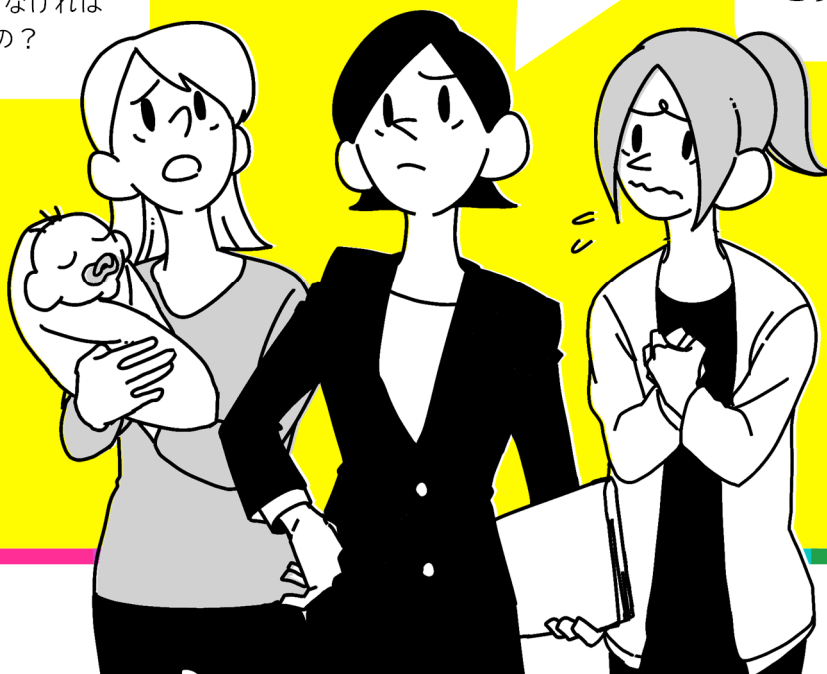
地域で活動するには
肩書や知名度が必要…？
どうしたら活動できるの？

防災研修を受けるためには
自治会からの推薦が必要…
活動したいと思ったとき、
**そもそもスタートラインに
立てないの？**

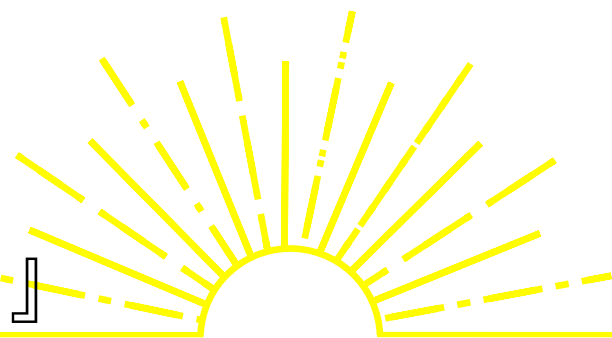
**家庭や仕事との
両立が大変…**
少ない人数で膨大な量の
仕事を完璧にしなければ
ならないの？

**防災活動が男性中心に
行われている…**
平時も災害時も、女性が主体的
な担い手であることを
みんなが理解するには
どうしたらいいの？

組織に入ったばかりの女性は、
会議で意見を言えない…
どうしたら会議で発言できる？



『女性が力を発揮する これからの地域防災』



本書は、地域で実際に防災活動をしている女性たちの声を元に次の2部で構成しています。

1

ノウハウ集

「地域のギモン」、「行政のギモン」の観点から、地域の防災活動で女性が力を発揮するための取組のヒントをまとめています。

2

活動事例集

地域の防災活動で女性が力を発揮している12団体の取組を紹介しています。

有識者からのメッセージ

女性が力を発揮するためのポイントチェック

お役立ち情報

<ジャンプマークについて>

p.24 ①1

このマークは、活動のノウハウに関連する事例が掲載されているページと項目を示しています。具体的な取組を知りたいときは、該当する活動事例を参照してください。

p.23 Q1A1

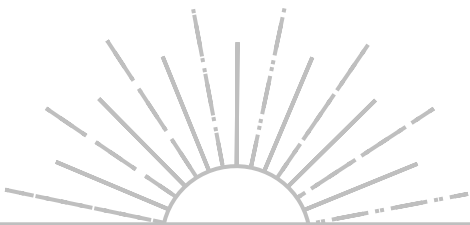
このマークは、活動事例に関連するノウハウが掲載されているページと項目を示しています。解決できる悩み・疑問や、他のノウハウを知りたいときは、該当するノウハウを参照してください。

これからの地域防災

女性が力を発揮する ためのノウハウ集

Q&A





ノウハウ集の目次

地域で女性が力を発揮するための活動のノウハウを
Q & A形式でまとめました。

地域のギモン

- Q1** 地域の防災活動に関心を持ってもらうためのよい方法がありますか？ _____ p.6
- Q2** 自主防災組織などの地域組織に女性がもっと参画するにはどうすればよいですか？ _____ p.7
- Q3** 女性と男性がともに防災活動を進めるために、地域組織の体制を整えたいです。よい方法がありますか？ _____ p.8
- Q4** 女性が主体となって防災に取り組みやすくするための工夫がありますか？ _____ p.10
- Q5** 生活スタイルに合わせて関わり方を選べる組織にしたいです。どんな工夫ができますか？ _____ p.12
- Q6** 女性が自分の考えや気持ちを伝えやすくするためのコツがありますか？ _____ p.14

行政のギモン

- Q7** 防災活動をしたいと思う女性に対して、行政は何から始めるとよいですか？ _____ p.16
- Q8** 行政が女性の防災人材を育成するときできる工夫がありますか？ _____ p.18
- Q9** 女性が継続して地域で防災活動をするために行政としてできることはありますか？ _____ p.20

Q1

地域の防災活動に関心を持ってもらうためのよい方法がありますか？

A1

防災以外の地域活動と結びつけてみましょう



防災研修や訓練だとハードルが高くて、お祭りや授業参観、運動会などの楽しいイベントと結びつけると、多くの人に参加してもらいやすくなります。

活動ノウハウ

- ✓ お祭りに併せて防災訓練を実施するなど、子供と一緒に参加したくなる工夫をする [p.35 ⑥2](#)



▲高校生と一緒に訓練（川向地区防災会）

- ✓ 子供会やPTAと連携して防災訓練やイベントを実施することで、参加する機会をつくる [p.39 ⑧2](#)

A2

防災と日常をつなげて啓発活動を行いましょう



防災を自分事にできると、興味を持ってもらいやすくなります。身近なテーマで企画の内容を考えてみましょう。

活動ノウハウ

- ✓ お茶を飲みながら、ちょっとした備え、知っておきたい知識、家族や自分を守る術を学ぶカフェ形式の訓練を実施する
- ✓ 日常生活とつながる内容のカリキュラムで防災を身近に感じられるようにする [p.24 ①1](#)

Q2

自主防災組織などの地域組織に女性が
もっと参画するにはどうすればよいですか？

A1

組織の活動を見える化しましょう



自主防災組織の活動やイベントに参加するようになった女性が、運営メンバーとして参画しやすくするために、組織の活動を見える化しましょう。

活動ノウハウ

- ✓ ホームページやブログ、SNSなどのICTを活用し、組織の活動内容をわかりやすく紹介する
- ✓ 誰が組織のメンバーとして活動しているのかわかるよう、イベントではゼッケンなどを着用する [p.38 ㊸1](#)
- ✓ 組織の名簿には、世帯主ではなく、実際に活動している人の名前を記載する [p.36 ㊹1](#)

A2

他分野で活動をしている女性たちを巻き込みましょう



民生・児童委員や子育て・福祉・防犯・環境の団体など、様々な団体で多くの女性が活躍しています。既に地域で活動をしている女性は、活動の場や人脈、活動を上手く進めるためのノウハウを持っており、防災活動を行ううえでとても心強いパートナーになります。

活動ノウハウ

- ✓ 福祉分野での防災、環境分野での防災など、既に実施している活動に防災をつなげ、必要性を理解してもらう [p.28 ㊻課題](#)
- ✓ 他分野で活動している組織に女性たちと、自主防災組織などがつながれるよう、行政につなげてもらう

Q3

女性と男性がともに防災活動を進めるために、地域組織の体制を整えたいです。よい方法がありますか？

A1

組織のルールを決めましょう



地域の防災力の向上のためには、意思決定の場や計画の段階から、女性が参画することが不可欠です。男女比を規約に明記するなどルール化して、女性が参画できる組織の仕組みをつくりましょう。

p.36 ⑦1

活動ノウハウ



- ✓ 副会長を男女1名ずつにするなど、責任のある立場を**男女両方が担う**体制にする
- ✓ 組織の規約に役員の男女比を「男女各〇名」と**明記する**
- ✓ 炊き出しやトイレ設営にも男女両方が関わるなど、**役割を性別で固定しない**

川向地区防災会 規約 抜粋

・第6条(役員)
防災会には原則として、次の役員を置く。
会長 1名 副会長 2名(男女各1) 事務局 1名
班長 1名 副班長 2名(男女各1) 監査 1名
委員 若干名(消防 日赤 リーダー長 リーダーなど)

▲規約で役員を「男女各1」と明記し、男女半々の人数で活動している
(川向地区防災会)

コラム: 経験者のことば



「リーダー」という言葉から、どんな人を想像しますか？



流山子育て
プロジェクト 代表

さまざまなリーダー像があっていい。活動を共にするメンバーには、団体の旗振り役だけでなく、それぞれのリーダーシップがあると思っています。各々が安心してそれぞれのリーダーシップを発揮できるよう、環境を整備するのがリーダーではないでしょうか。

p.44 ⑪

A2

役割を担う人の数を増やしましょう



役割を担う人が増えるとお互いを知る機会も増え、地域の中で次の世代が育ちやすくなります。

活動ノウハウ

- ✓ 1つの役を複数人で担うなど、運営の中核メンバーの人数を増やす [p.36 ⑦1](#)
- ✓ お祭りや運動会など、地域行事での役割を防災活動にスライドさせる [p.38 ⑧1](#)
- ✓ 今まで1つの部で担っていた活動を2つの部に分けるなど、仕事を細かく分担する



▲夏祭りでの役割を防災訓練での役割にスライドさせている(福住町町内会)

A3

地域でお互いに相談し合える関係性をつくりましょう



ルールを変えたり、新しい組織を立ち上げようと思ったとき、地域の中に相談できる人や経験・人脈が豊富な人が関わると、大きな力になります。

活動ノウハウ

- ✓ 長年、自治会・町内会等で活動しているなど、地域住民からの信頼が厚い方や、地域に広い人脈を持つ方などの意見を聞く
- ✓ 婦人会やPTA、民生委員など、地域で既に活動している女性に意見を聞く [p.38 ⑧課題](#)
- ✓ 人数の少ないグループで自由に意見交換や相談をし合えるよう、女性部会などの女性の防災グループをつくる [p.37 ⑦3](#)



Q4 女性が主体となって防災に取り組みやすくするための工夫はありますか？

A1

活動しやすくするための ツールを作ってみましょう



「地域で活動したい」と思った人が、気軽に始められるように、資料やグッズなどのツールを作成して活用しましょう。

活動ノウハウ

- ✓ 災害時のトイレの使い方を説明する紙芝居や、応急手当の説明をするためのイラスト・動画など、
説明するための資料をつくる p.27 ②1
- ✓ 防災訓練やイベントなどで、
ツールを使って**発表する場**をつくる
- ✓ 独自の**防災グッズをつくる**
など、防災の啓発活動をしやすくするためのモノをつくる p.47 ②1
- ✓ 自作したモノを使って、防災啓発の**イベントやセミナー**などを地域で開催する p.47 ②1



▲いばらき女子防災部が防災クイズの練習をしている様子(茨木市)



▲ダンボールで簡易トイレを制作している様子(平塚パワーズ)

A2

得意なことを持ち寄って 協力しましょう



新たな提案は、実現するためにさまざまな人の力が必要になります。
周りの人たちが得意なことを持ち寄って協力することで、誰かが提案したことを実現でき、
提案した人や周りの人たちの自信にもつながります。 [p.37 ㉒](#)

活動ノウハウ

- ✓ 新たな提案やアイデアを**否定しない**
- ✓ 発案者が中心となり、
話すのが得意、絵を描くのが得意、
工作が得意、お金の管理が得意など、
得意なことを持ち寄って実現する
- ✓ **楽しんで**活動することを大切にする



▲女性が発案して劇が好きな方が
台本を書いた防災劇(川向地区防災会)

A3

女性たちの活動を地域の男性 が知る機会をつくりましょう



地域の男性が、女性たちがどんな活動をしているのかを知る機会があると、
理解が深まり、一緒に活動しやすくなります。
活動したいと思っている女性が地域の活動を知る機会も必要です。

活動ノウハウ

- ✓ グループを作り活動している女性たちに、
地域の防災イベントの**ブースやコーナー**を
担当してもらい、活動している女性たちと地域が
お互いの活動内容を知り合う [p.27 ㉒](#)
- ✓ 研修を修了した女性たちが、自主防災組織の役員など**地域の人たちを**
招待して学んできた内容を発表する [p.31 ㉑](#)
- ✓ 自主防災組織連合会などの活動報告会で、女性たちが活動を発表するなど、
自主防災組織の**会長たちが女性の活動について知る** [p.27 ㉒](#)



Q5

生活スタイルに合わせて関わり方を選ぶ組織にしたいです。
どんな工夫ができますか？

A1

一人あたりの負担を減らしましょう



役割を担う人に大きな負担がかからないよう工夫することで、家庭や仕事とのバランスをとりながら活動ができるようになります。

活動ノウハウ

- ✓ 部長や副部長を2人制にするなど、複数人で役割を担い、手分けしたり相談したりして活動する
- ✓ 組織全体での会議を短時間にするために、部や班で短時間の小さな集まりを頻繁に開く
- ✓ 1回あたりの活動時間を短くして参加しやすくする
- ✓ 曜日や時間帯にとらわれず、自由な時間に活動できる場所を確保する
- ✓ 話し合いやイベントの準備をする時間帯を平日昼間や夕食時から外すなど、みんなで話し合って決める



▲妻が地域活動を頑張ると、夫も協力する家族が多い（市名坂東町内会）

- ✓ 活動を手伝ってもらったり、イベントと一緒に参加するなど、活動に家族も巻き込む [p.35 ⑥2](#) [p.42 ⑩課題](#)
- ✓ 活動の手順や内容をノートに記録するなど、活動の内容を見える化して、引継ぎをしやすくする [p.38 ⑧1](#)
- ✓ 役員を引退した方などが、会議やイベント中の子供の見守りをサポートをする [p.44 ⑪課題](#)
- ✓ 子供が遊べるスペースの確保や託児サービスを設ける [p.24 ⑪1](#)

A2

ICTなどのツールを活用して 情報を共有しましょう



LINEなどのICTを活用すると、同じ時間に一箇所に集まって会議をしなくても意見交換ができるため、効率的に活動できます。

活動ノウハウ

- ✓ 必要な情報を記載できる**様式を**

つくるなど、会わなくても情報を共有できる工夫をする [p.47 ⑫2](#)

- ✓ **LINEやチャット、オンライン会議**

システムなどのツールを使って、会わなくても意見交換できるようにする [p.43 ⑩1](#)

- ✓ **高齢者向けにツール活用講座**を行い、誰もが使えるようにする [p.43 ⑩1](#)

依頼先		
実施日・時		
場所		
特記事項		
集合時間		
参加者数（予定）		
パワーズ参加者		
駐車		
タイムスケジュール		

▲講習の依頼は様式に記入して共有（平塚パワーズ）

A3

柔軟に活動できる 組織にしましょう



個人の生活スタイルに合わせて、参加の仕方や役割の担い方などを選べると、多くの人が活動に取り組みやすくなります。従来の運営方法を変えて、参画しやすい組織を目指しましょう。

活動ノウハウ

- ✓ 人それぞれの事情に合わせて、**可能な範囲で参加できる雰囲気**をつくる [p.35 ⑥2](#)

- ✓ 組織の運営も活動内容も**完璧を目指さず、**

次の世代が改善していくポイントが見つかったと捉える [p.37 ⑦2](#)

- ✓ 計画どおりにできないことがあっても、できたことを認め、

「まあ、いっか」と切り替える

- ✓ 自分のライフスタイルの変化に伴って、**役員を辞めたり戻ったり**できるようにする [p.35 ⑥2](#) [p.39 ⑧2](#)

Q6

女性が自分の考えや気持ちを伝えやすくするためのコツはありますか？

A1

会議で話しやすくなる工夫をしましょう



自分の考えや気持ちを伝えることができるよう、発言しやすくなる工夫を行いましょう。

活動ノウハウ

- ✓ 会議の主催者は、**出席者全員が発言**できるようにする p.34 ⑥課題
- ✓ 女性が少ない会議の場合は、**女性を複数入れる**ことで、発言しやすくする
- ✓ お互いの顔が見えるよう、テーブルを**コの字型や口の字型**に配置するなど座席の配置を工夫する
- ✓ 夫の代わりではなく、会議に参加する**女性が主体的に関わる**よう、参加する人の名前を名簿に掲載するとともに、自分の意見を言ってもらよう促す p.36 ⑦1
- ✓ **女性部会**など、女性だけで話せる場をつくり、発言しやすくする p.37 ⑦3



▲口の字型の配置で発言しやすい工夫
(川辺復興プロジェクトあるく)



▲女性だけで話し合える場をつくっている
(川向地区防災会)

A2

会議や発表にそなえ 準備をしっかりと進めましょう



伝えたいポイントをしっかりと伝えることができるよう、
事前に準備をしておくことが大切です。

活動ノウハウ

- ✓ 参加する前にしっかりと準備できるよう、
会議の議題や講座の目的など、**何について
話す場面なのか**を事前に共有する
- ✓ 配布する資料や話し方などを
メンバー同士でアドバイスし合うなど、
事前準備の時間を確保する p.47 ⑫1
- ✓ 専門用語などの難しい言葉だけではなく、
自分が普段使っている言葉を
使うよう促す p.47 ⑫1



▲自分の言葉で防災グッズの作り方を説明している(平塚パワーズ)

コラム：経験者のことば



自分で企画立案するための プレゼン力を強化しています



NPO法人
とれじゃーBOX
代表



大阪市立男女共同参画センター(クレオ大阪中央館)のグループ活動では、「女性のための防災サロン」を開催しています。会議で上手く発言できない、発案が通らないなどの悩みを持つ女性たちが楽しくおしゃべりしながら、みんなでアドバイスし合い、人前で自分の考えを発信する方法を学んでいます。学んだプレゼン力を自分なりに地域で活かし、いきいきと活動できるようにしています。

Q7

防災活動をしたいと思う女性に対して、
行政は**何から始める**とよいですか？

A1

同じ目的を持つ人や組織を つなげる機会をつくりましょう



一人の人が「やりたい」と思っている活動を、他の人も「やりたい」と思っているかもしれません。一緒に活動したり、困ったときに相談できる仲間がいると、活動の実行力が高まります。

活動ノウハウ

✓ 女性が気軽に参加できる研修やセミナーなどを開催する p.24 ①1

✓ 研修の修了生が参加できるメッセージグループや
メーリングリストを作成し、**研修終了後も**お互いにつながり、
情報交換できるようにする p.33 ⑤2

✓ 受講者仲間、防災士仲間、子育て仲間、民生委員仲間など、**同じ
目的を持つ人たち**で新たにグループを結成できるよう支援する p.33 ⑤3

✓ **活動報告会**などのイベントを開催し、研修の受講生と修了生が
交流する機会をつくる p.33 ⑤2

A2

地域とマッチングしましょう



一人ひとりの希望に沿う活動を選択できるように、
女性と自主防災組織などをマッチングしましょう。

活動ノウハウ

✓ 研修終了後に活動したい内容を面談などで把握し、
活動できる組織を紹介するなど、行政が**活動したい
女性と受け入れ側の地域組織**をつなぐ p.25 ①2

✓ 自主防災組織で**すでに活動している女性と、これから
活動する女性**と一緒に受講できる研修を実施するなど、
異なる立場の女性同士が交流する場をつくる p.26 ②課題

A3

地域防災の担い手の捉え方を 広げてみましょう



「地域の防災活動」は、自主防災組織や自治会・町内会等にこだわる必要はありません。例えば、同じ小学校区、同じ市区町村など地域の範囲を広げたり、防災以外のテーマの活動の中で、防災にも取り組むことで、活動の場が広がります。

活動ノウハウ

- ✓ 市区町村内の**防災に関心のある女性たち**が中心となって活動する**グループ**の立ち上げや運営を支援する [p.46 ⑫](#)
- ✓ 福祉、子育て、食生活、環境、ボランティアなどの**他のテーマで活動しているグループ**の防災の取組を支援する [p.44 ⑪](#)
- ✓ 市区町村内外で継続的に防災活動に取り組んでいる女性に、自主防災組織などの訓練や活動の**アドバイザー**になってもらう



▲流山市の子育て中の女性16名で活動（流山防災プロジェクト）

コラム：経験者のことば



防災で地域の中の人や 外の人とつながる



川辺復興プロジェクト
あるく 代表

[p.42 ⑩](#)



平成30年の西日本豪雨の後、支援物資を運びながら地域を回っているとき、LINEグループでのつながりがない方々が気落ちされているのを見ました。地域に住む人たちがつながれる場を作りたいという思いから、ボランティア団体に協力していただき、ごはんを食べに来ることをきっかけに集えるよう、団体として会場運営や広報を行いました。

Q8 行政が女性の防災人材を育成するとき できる工夫はありますか？

A1

研修のカリキュラムを 工夫しましょう



防災研修は、基礎的な知識を習得するだけでなく、受講者が自信をもって地域で実践できる学びにすることが大切です。

活動ノウハウ

- ✓ 避難所での女性の困り事や、災害時の女性や子供に対する暴力に関する講義、避難所の体験を取り入れるなど、防災を自分事として考えられるようなカリキュラムにする [p.40 ㊟1](#)
- ✓ 一人ひとりが設定した目標の達成に向けて、講師のサポートを受けながら、自分でカリキュラムを組み立て、人前で実際に講義を行うまでの一連の流れを実践する [p.32 ㊟1](#)
- ✓ 地域で既に活動している女性に参加を呼びかけ、カリキュラム作成の段階から協働して研修をつくりあげる [p.29 ㊟1](#)

A2

研修の仕方を工夫しましょう



ワークショップやOJTの要素を取り入れるなど、実際に活動する際に役立つスキルを身に付けたり、担い手としての主体性を引き出す工夫をしましょう。

※OJT(OJT(On-the-Job Training):具体的な仕事を通じて、仕事に必要な知識・技術・技能・態度などを指導・教育する手法)

活動ノウハウ

- ✓ ワークショップを多く取り入れ、参加者同士の意見交換を通じて、気づきを促す [p.27 ㊟1](#)
- ✓ 地元大学の先生や地域の実践者がスーパーバイザーとして伴走しながら実践を積む [p.32 ㊟1](#)
- ✓ 受付や会場の設営を受講者が行うなど、受講者同士が協力する機会をつくる [p.31 ㊟1](#)



A3

参加者の募集方法を工夫しましょう



募集の声かけをどの部署からどんな方法で行うかによって、参加者の所属や年齢層が大きく変わります。研修の目的に合わせ、他部署からの募集も検討してみましょう。

活動ノウハウ

- ✓ 男女共同参画部署からは、「これまで防災活動に関わっていない女性」を対象に、危機管理部署からは、「自主防災組織の女性」を対象に声をかけるなど、**いくつかの部署が連携して参加者を募る** p.26 ②課題
- ✓ 福祉・環境・食生活・子育てなど、地域ですでに活動している**他分野の団体**に声かけをする p.28 ③課題
- ✓ 研修のテーマや対象者に合わせ、関わりのある**他部署のネットワーク**を使って、対象となる女性たちに情報を届ける

A4

女性と男性がともに学び合う機会をつくりましょう



男女共同参画の視点から防災を考えるには、女性と男性がともに男女共同参画について学び、お互いを理解し合う必要があります。



活動ノウハウ

- ✓ 男女共同参画担当部局や男女共同参画センター、男女共同参画の推進に取り組むNPOなどと連携して、**防災と男女共同参画をテーマとした研修**を実施する
- ✓ 男性参加者が多い研修と女性参加者が多い研修で**同じ内容の研修を実施**するなど、男性も女性も一緒に、防災や男女共同参画について学べるようにする p.30 ④課題
- ✓ ワークショップで、**同じ地域の男女が同じグループ**になるようにするなど、お互いの考えを知る機会をつくる p.30 ④課題

▲男女が同じグループでワークショップする様子（四日市市）

Q9

女性が継続して地域で防災活動をするために行政としてできることはありますか？

A1

活動をバックアップしましょう



女性の活動を支えるために、様々な面から支援しましょう。

活動ノウハウ

- ✓ 行政が主催する防災のワークショップなどで、実際に地域で活動する女性が受講者の前で説明する時間を設けるなど、講師とともに、**実践に近い形で練習する機会**を提供する p.27 ②1
- ✓ 女性たちの主体性に重きを置きながら、自主的に活動するために必要な**拠点を提供**したり、事務作業などを支援する p.29 ③2
- ✓ 自主防災組織に**講師ができる女性を紹介**するなど、活動する場を提供する p.29 ③2
- ✓ 活動について相談ができる**担当職員を配置**するなど、信頼関係をつくる
- ✓ **地方防災会議の委員**などにも積極的に女性を登用する p.45 ⑪2
- ✓ 活動のための**助成事業**を行う
- ✓ 女性が地域で活動しやすくなるよう、防災に男女共同参画の視点を導入することの有効性と必要性について、地域の**理解促進を図る**



A2

活動をPRしましょう



行政が女性の活動をPRすることが、活動の理解や信頼の確保につながり、モチベーションが高まる、活躍の場が広がるといったよい効果が得られます。知ってほしい女性の活動にスポットライトをあてましょう。

活動ノウハウ

- ✓ ホームページや広報誌に活動内容を掲載するなど、多くの人に女性たちの活動を知ってもらう機会をつくる [p.25 ①②](#) [p.46 ⑫課題](#)

- ✓ 活動を紹介できるイベントを開催する

など、PRができる機会を提供する [p.25 ①②](#) [p.27 ②②](#)

- ✓ 全国や都道府県などが実施する賞に応募したり、推薦したりすることで、女性たちの優良な取組を発信する



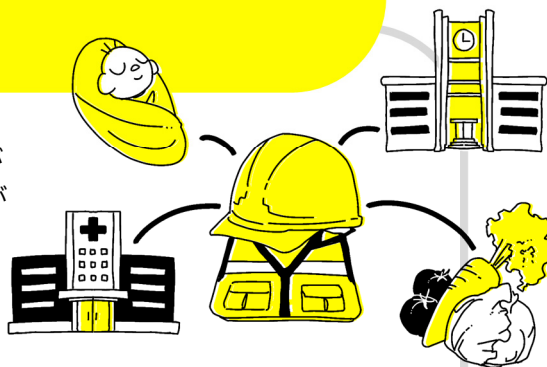
▲活動が市民活動センターの広報誌で紹介された(平塚パワーズ)

A3

活動する団体同士のネットワークをつくりましょう



地域には、様々な分野で地域活動を行っている団体があります。団体同士がネットワークを作り幅広い活動ができるよう行政として支援しましょう。平時からのネットワークが、災害時の相互支援にもつながります。



活動ノウハウ

- ✓ 福祉・環境・食生活・子育てなど、他分野の所管課と協力し、

防災をキーワードに団体同士がつながる場をつくる [p.29 ③①](#)

- ✓ 防災をテーマに、自治会・町内会やまちづくり協議会など、

地域の団体同士をつなぐネットワークをつくる [p.43 ⑩②](#)

- ✓ 女性部会など、地域で活動する女性たちが

情報交換できる場をつくる [p.27 ②②](#)

- ✓ 都道府県や大学などが中心となって、都道府県内で防災活動を行

う人たちがつながり、情報交換するネットワークをつくる [p.33 ⑤②](#)